

一般演題(口演) | 看護管理

第5群 看護管理

座長：増野 園恵（兵庫県立大学）

2017年12月16日(土) 14:30 ~ 15:20 第4会場（会議棟 白樫1）

[O05-4]日本人看護師の外国人患者への看護ケア提供における困難と属性との関連：テキストマイニング結果より

○野崎 章子, 野地 有子（千葉大学大学院看護学研究科）

【目的】滞日外国人数は増加の一途をたどり、2015年には過去最高の2,000万人を超えた。こうした外国人滞日者に対し、その多様な文化的背景を考慮して、文化的に適切であり、かつ安全・安心できる看護ケアを提供するために、看護師の文化的能力 cultural competencyを向上することは喫緊の課題である。そこで、本研究においては、外国人患者への看護ケア提供における、日本人看護師の困難の内容および看護師の属性との関連を明らかにし、看護師の文化的能力向上のための示唆を得ることを目的とする。

【方法】日本全国の19病院に勤務する、様々な職位の看護師9,140人を対象としたクロスセクショナル・デザインである。人口学的属性や海外滞在経験等に関する設問、看護師の文化的能力に関する評価尺度、そして外国人患者への看護ケア提供における困難についての自由記載方式の質問を含む、無記名自記式質問紙を用い、留め置き法によってデータを収集した。この自由記載回答について、テキスト・マイニングソフト（IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0.1 Japanese Version）を用いて困難内容を概念として抽出し、定量的に記述した。また回答者あたりの記載困難数と属性との関連について検討した。データ収集期間は2015年9-12月であった。

【倫理的配慮】本研究実施に当たり、研究者らの所属機関の倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】質問紙調査への回答者数は7,592名（83%）であり、有効回答数は7,494（82%）であった。有効回答者の平均年齢は32.6（SD=9.4）歳、女性91.3%、男性8.4%であり、職位は管理職、看護師長、主任看護師、スタッフナース等であった。うち、外国人患者への看護ケア提供における困難を記載したのは4,738名（51.8%）であった。記載者数の多い順による上位50の困難内容は、1位「コミュニケーション」（該当記載者2,736人、36.5%）の他、「違い」、「説明」、「理解」、「文化」、「緊張」、「不正確」等であった。有効回答者一人あたりの、これら上位50の困難に該当する記載数は、0（未記載者含む）から14であり、0（37.9%）を除くと最頻値は2（18.9%）であった。属性との関連では、記載困難数の中央値が女性2.00にて男性より高く（ $p=.000$ ）、管理職が他職位より低い2.00（ $p=.000$ ）、人生の大半を海外にて過ごした者は最高値の6.00であった（ $p=.000$ ）。

【考察】有効回答者数の30%以上が困難であるとしたコミュニケーションが「説明」「不正確」等とつながり、看護ケアに影響を及ぼしている。看護師あたりの困難数については、その属性や海外渡航経験と関連があることが明らかとなった。医療安全の観点からも、また患者がその出身国にかかわらず十分な受療となるため、言語的かつ文化的媒介となる資源が必要であるとともに、看護師の属性や海外滞在経験等に鑑みた文化的能力向上方策が必要であることが示唆された。